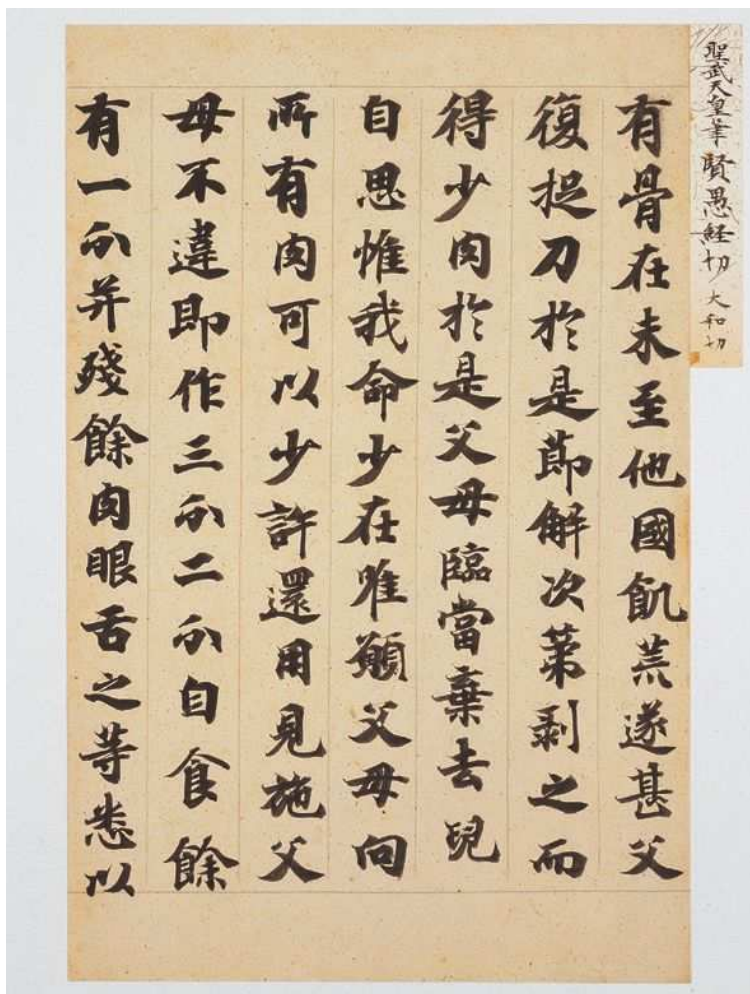


Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第79号

平成23年 10・11・12月



賢愚経断簡(大聖武) (「写経手鑑 紫の水」所収、当館蔵) 一名品展「珠玉の仏教美術」より

特別展

第63回 正倉院展
10月29日(土)～11月14日(月)
東新館・西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
12月6日(火)～平成24年1月15日(日)
東新館

名品展

珠玉の仏たち
10月4日(火)～
なら仏像館

中国古代青銅器
10月4日(火)～
青銅器館(坂本コレクション)

珠玉の仏教美術
12月6日(火)～
西新館

特集展示
新たに修理された文化財
12月6日(火)～25日(日)

第63回 正倉院展

10月29日(土)～11月14日(月)

本年の正倉院展は、北倉七件、中倉二十六件、南倉二十六件、聖語藏三件の総計六十二件の宝物が出陳されます。このうち初出陳が十七件あり、例年よりやや多めになっています。正倉院宝物の全体が概観できる内容で、話題性のある宝物が今年も揃っております。

昨秋東大寺金堂鎮壇具(国宝、奈良・東大寺所藏)中の金銀荘大刀から、エックス線写真によって「陽剣」「陰剣」の銘文が見つかったことは記憶に新しいところです。これらは宝物の献納目録である『国家珍宝帳』に「除物」の貼紙がされ、宝庫より持ち出されたことはわかるものの行方がわからなかった「陽宝剣」「陰宝剣」に当たるのではないかと話題になりました。本年の正倉院展では、その「陽宝剣」「陰宝剣」の出蔵について記した文書である「出蔵帳」が出陳されます。また併せて「陽宝剣」「陰宝剣」とともに聖武天皇のお側に置かれた金銀細金唐大刀①(丸数字は写真番号。以下同じ)、大型の刀子である斑犀把漆鞘銀漆刀子など、古式を伝える刀剣も展示致します。

聖武天皇のご遺愛品としては、ご出家の後に着用された可能性のある七条織成樹皮色袈裟②が、包み裂や箱などの収納具とともに出陳されます。またこれら一連の宝物を宮内庁正倉院事務所が復元した模造品も併せて展示されます。



①金銀細金唐大刀(北倉)



④沈香把鞘金銀荘刀子(中倉)



②七条織成樹皮色袈裟(北倉)



③黄熟香(中倉)



⑤紅牙撥鏤尺(中倉)



⑧東大寺山堺四至図(中倉)



⑦金銅花形裁文(南倉)



⑥縹緗布幡(南倉)

具など彩り豊かな宝物も見逃せません。さらに、奈良時代の東大寺の寺域を描いた古地図⑧や当時の国家体制や社会生活を伝える古文書類、仏教文化の受容と興隆を示す内外の写経など、古代の人々の存在を身近に感じさせる宝物も並び、興味の尽きない内容となっております。

また「蘭奢待」の雅名で知られる黄熟香③は、天下の名香として足利義政や織田信長など、時の権力者を魅了したエピソードが有名です。本年は黄熟香をはじめ、宝物の防虫に用いられたと考えられる裏衣香や香木を素材に用いた沈香把鞘金銀荘刀子④、香を薫く道具であった赤銅柄香炉、香合として用いられた赤銅合子などの合子類など、香に関連する宝物がまとまって展示されます。

このほか紅牙撥鏤尺⑤や碧地金銀絵箱など、天平時代の煌めきを伝える工芸品、華やかな仏教法会の様子を彷彿させる縹緗布幡⑥や金銅花形裁文⑦、華鬘残欠といった荘嚴

特別陳列

おん祭と
まつり

かすががしんこう
春日信仰の美術

12月6日(火)～

平成24年1月15日(日)

歳末の奈良を彩る風物詩・春日若宮おん祭は、平安時代の保延二年(一一三二)九月十七日にはじまったとされています。その後祭日は、室町時代から十一月二十七日、明治十一年(一八七八)からは現行の十二月十七日と変わりましたが、その間絶えることなく続いたとされ、今年で八七六回を数えます。

この展覧会は、おん祭の行われる季節に合わせ、主祭神である若宮神やおん祭に関わる



◎五輪塔嵌装舍利容器 奈良・不退寺

品々を集め、展示を通じておん祭の一端を紹介する企画です。今回は舞楽の勝負舞の順番を決める勝負事であった競馬と相撲に注目し、関連資料を展示します。また、春日社の社家の成り立ちや活躍を伝える絵画などを展示致します。加えて、様々な種類の春日曼荼羅や春日講に係る資料を通じて、春日信仰の広がりや多様性を感じていただければ幸いです。



抜頭・相撲図衛立 奈良・春日大社
(展示期間:12/27～1/15)



春日権現験記絵(春日本) 第四巻 奈良・春日大社



競馬図屏風(右隻) 奈良・春日大社



春日文殊曼荼羅 当館



春日社寺曼荼羅 奈良・久度神社
(展示期間:12/6～12/25)

特集展示

新たに修理された文化財

12月6日(火)～12月25日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。奈良国立博物館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、絵画・彫刻・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、近年修理を受けた収蔵品の中からいくつかを選んで展示公開し、あわせてその修理内容をパネルで紹介するものです。この展示を通じて、文化財修理に関する博物館の取り組みについて、関心と理解を一層深めていただければ幸いです。



◎絹本着色地藏菩薩像(当館)
(右)修理前
(左)修理後

文化財レスキューについて

岩戸晶子（当館学芸部研究員）

3月11日の東日本大震災では地震と津波によつて尊い人命が失われ、広い地域で甚大な被害が出たのはご存知の通りです。いまなお、復旧・復興の途上であり、避難所に身を置いておられる被災者の方も多くおられることに心が痛みます。

今回の震災では、人命や家屋だけでなく美術館・博物館施設、そして文化財自体にも大きな被害が出ました。文化庁は震災の二十日後には「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（レスキュー事業）」を立ち上げ、国立博物館や文化財研究所、東北地方を含む全国の様々な美術館・博物館、大学などが連携して参加し、活動が続いています。

普段東北地方との接点が少ない当館ですが、昨年度は「博物館所蔵の考古資料相互貸借事業」により福島県・南相馬市博物館と所蔵品をお互いに貸借しあった相互展示を行ったところでした。私事ですが、私が当館の資料を引き取つて南相馬市博物館から奈良に向けて車で出発したのが震災の二日前のことでした。また、私自身が阪神大震災では被災者として救援を受けた側であったこともあり、強く希望して六月と七月の二回、それぞれ一週間という短い期間でしたが、文化財レスキュー事業に参加する機会を得ました。今回はこの活動について簡単にご報告したいと思います。

私が参加した時期は宮城県教育委員会の要請により特に被害の大きかった石巻市及びその周辺を中心に活動



津波が直撃したマリンパル女川のエントランス



鮎川収蔵庫での「再発掘」作業

していました。いずれもヘルメットにヘッドライト、防塵防臭マスクや安全靴を身につけて、余震に注意しながらの作業です。津波被害が殊に大きかった女川町のマリンパル女川では、まさに津波が襲ったそのままの展示室に入りました。壁に固定されていたものの以外はほとんどの展示品が波にさらわれていましたが、瓦礫や割れた展示ケースのガラスをかきわけていくと、津波が堆積させた泥の中にはわずかに資料が残っており、「救出」することができました。

牡鹿半島の先端にある石巻市鮎川では、文化財収蔵庫のレスキューに向かいました。この鮎川収蔵庫は隣接する

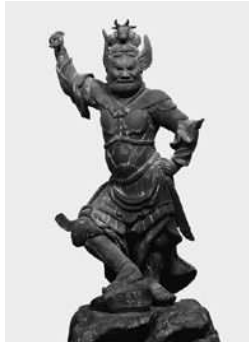
体育館の陰になり、建物の流出は防げたものの、津波によって内部が攪拌された状態になっていました。大きな民俗資料や収納棚が倒れこみ、津波が運んできた床の堆積土のなかには土器や石器などの細かい考古資料が散在していました。大きな資料を体育館内に避難させたほか、考古学専門の参加者は堆積土の中から考古遺物を選び分ける「再発掘」の作業を行いました。

現在、現場から救出して安全な場所に避難させる初期的な作業はほぼ終わり、一部の資料は応急処置として洗浄や紙資料の凍結乾燥といった作業が各地で進められています。今後は整理作業や壊れてしまった文化財の修理・修復といった作業も本格化していきます。一方で、今まで余裕がなく文化財レスキュー事業自体を受け入れできなかった市町村からいまだ要請が来ているという現実もあるそうです。今回の被災範囲は大きく、全ての被害を把握するだけでもまだまだ相当の時間と労力が必要です。

文化財も一度失われたらもう二度と元に戻すことはできません。東北地方が復興した暁には地震や津波の被害を乗り越えた文化財が各博物館や美術館に展示されることを願いつつ、できる限り文化財を救出し、被害を最小限に抑えるよう活動に協力・参加していきたいと考えています。まだまだ続く文化財レスキュー事業にみなさまのご理解とご支援もぜひお願いいたします。



簋(当館)



十二神将立像 丑神(当館)



如意輪觀音菩薩坐像(当館)



○阿閼如来坐像(西大寺)

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

10月4日〜12月
なら仏像館

特別公開

【金剛寺 降三世明王坐像】第3室
○降三世明王坐像 金剛寺

【中国の石仏】第4室

○如来三尊像 当館
○如来三尊像 個人
○十一面觀音菩薩立像 当館
如来立像 個人
如来九尊像 個人
如来坐像 個人

【中国・朝鮮半島の金銅仏】第4室

誕生釈迦仏立像 個人
二仏並坐像 当館
供養者坐像 個人
押出五尊仏 個人
觀音菩薩立像 個人
力士立像 個人
力士立像 個人
如来立像 光明寺
如来立像 当館

【旧帝国奈良博物館本館模型】第5室

○表昇降口雛形 当館
○棟札 当館

【菩薩】第6室

○菩薩立像 細見美術財団
虚空蔵菩薩坐像 北僧坊
弥勒菩薩立像 林小路町自治会
菩薩半跏像 文化庁
地藏菩薩立像 十市町自治会
地藏菩薩立像 大福寺
地藏菩薩立像 春覚寺
地藏菩薩立像 称名寺

【明王】第7室

五大明王像 当館

○不動明王坐像 園城寺
○不動明王坐像 正寿院
愛染明王坐像 当館

【上代の金銅仏】第8室

誕生釈迦仏立像 当館
誕生釈迦仏立像 当館
誕生釈迦仏立像 個人
如来立像 当館
○觀音菩薩立像 金剛寺
○觀音菩薩立像 觀心寺
○觀音菩薩立像 個人
菩薩半跏像 神野寺
○觀音菩薩立像 法隆寺
菩薩立像 法起寺

【塑像と埴仏】第8室

侍者坐像 当館
○奈良県法隆寺塔本塑像 当館
○塔本塑像断片 藥師寺
○奈良市藥師寺出土 塑像断片(菩薩頭部) 当館
○奈良県明日香村 定林寺出土 塑像断片 個人
○滋賀県竜王町 雪野寺出土 塑像断片 個人
方形独尊坐像埴仏 当館
多宝塔埴仏 個人
火頭形三尊埴仏 当館
○伝奈良県明日香村 橘寺出土 当館

【護法の天部形】第9室

○十二神将立像(6軀) 東大寺
十二神将立像(12軀) 当館
六角形埴仏 当館
○三重県松阪市 天華寺跡出土 当館

【檀像】第10室

○藥師如来坐像 当館
如意輪觀音菩薩坐像 当館

○釈迦如来坐像 東大寺
○觀音菩薩立像 本山寺

【神仏習合】第11室

○大將軍神坐像 大將軍八神社
大將軍神坐像 当館
男神坐像 觀音寺
童子形神坐像 当館
伊豆山権現立像 当館
男女神坐像 当館
○蔵王権現立像(2軀) 大峯山寺
金剛童子立像 当館

【動物彫刻】第12室

○獅子 当館
獅子 当館
○狛犬 手向山八幡宮
○狛犬 当館

【仮面】第13室

舞楽面 胡德楽 個人
舞楽面 胡飲酒 手向山八幡宮
舞楽面 崑崙八仙 当館
伎楽面 治道 東大寺
伎楽面 力士 神童寺
伎楽面 力士 当館
能面 皺尉曲見・千種怪士 根来寺
○菩薩面(3面) 浄土寺

名品展

中国古代青銅器

10月4日〜12月
青銅器館(坂本コレクション)

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、觥、方彝、卣、罍、鼎、鬲、罍、盃、豆、盤、匜、盥、甗、鐘、鈎、扁壺、蒜頭壺、甗、鍬、博山炉、鎮子、鏡、鍔干など(当館)

●国宝 ○重要文化財

※すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。



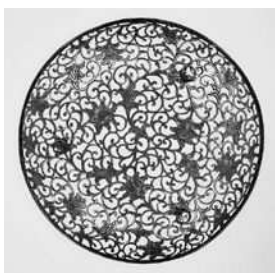
大般若經 卷第四百七十一（談山神社）



紫紙金字法華經（兼宝寺）



組法具（真光寺）



宝相華唐草文華籠（神照寺）

名品展 珠玉の仏教美術

12月6日～25日
西新館

【絵画】

- 金胎仏面帖 当館
- 不動明王俱利迦羅龍劍 当館
- 二童子図像 当館
- 十巻抄（仏頂等） 当館
- 大随求曼荼羅諸尊等図像 当館
- 両界曼荼羅 当館

◎一字金輪曼荼羅

- 大仏頂曼荼羅 当館
- 尊勝曼荼羅 当館
- 六字経曼荼羅 当館

◎五大虚空蔵曼荼羅

- 紅玻璃阿弥陀像 西大寺
- 不動明王二童子像 長命寺

◎俱利迦羅龍劍二童子像

- 瑞璃寺 当館
- 五大明王像 当館
- 大威徳明王像 当館

◎十二天像

- 当館
- 両界曼荼羅（子島曼荼羅）子嶋寺

【書跡】

- 写経手鑑 紫の水 当館
- 大般若経 卷第四百七十一 談山神社
- 大般若経 卷第四百三十八 談山神社
- 註維摩詰経 卷第八 当館
- 無量義経 禅林寺

◎紫紙金字法華経

- 乗宝寺 大福田寺
- 智度院規式 興国寺
- 根来寺伽藍古絵図 根来寺

【考古】

- 土偶・山形県杉沢遺跡出土 当館
- 注口土器ほか 当館
- （青森・岩手県出土） 当館
- （小野コレクション） 当館
- 銅鐸 大阪・妙国寺

家形土器

- （静岡県鳥居松遺跡出土） 浜松市立博物館
- 弥生土器 浜松市立博物館
- （静岡県伊場遺跡出土） 当館

◎銅鏡（奈良県天神山古墳出土）

- 鉄地金銅張心葉形杏葉・同鏡板 当館
- （奈良県珠城山3号墳出土） 当館

◎金製耳飾

- 金銀象嵌鳳凰文把頭他 当館
- （奈良県塚山（星塚）古墳出土） 当館

◎軒丸瓦・軒平瓦

- （奈良県山田寺跡出土） 当館
- （奈良県川原寺出土） 当館
- （奈良県山崎村寺跡出土） 当館

◎隅木蓋瓦・風鐸

- （和歌山県上野廃寺出土） 当館
- 鬼身文鬼瓦 京都国立博物館
- （奈良県薬師寺出土） 当館

◎鬼面文鬼瓦

- （奈良県中山瓦窯出土） 当館
- 山城忌寸真作墓誌 当館
- 行基舍利瓶残欠 当館

◎佐井寺僧道業墓出土土品

- 当館
- 灰釉短頸壺・同皿 当館
- （茨城県八郷町出土） 当館

◎銅製空形形鉢（永久四年銘）

- 銅製如来像（福岡県出土） 当館
- 銅製経筒・銅鏡六器・花瓶・独鈷杵・白磁合子（山口県長門ノ宮経塚出土） 当館
- 線刻蔵王権現鏡像（奈良県金峯山出土） 金峯山寺

◎瓦塔

- （静岡県浜松市（三ヶ日町）出土） 当館
- 阿弥陀如来鏡像 当館
- 地藏菩薩鏡像 当館

◎千手観音鏡像

- 阿弥陀如来懸仏 個人
- 蔵王権現懸仏 個人
- 聖観音懸仏 当館

◎透彫華鬘

- 中尊寺金色院

●幡頭

- 種子華鬘 中尊寺金色院
- 舍利容器 当館
- 棺形舍利容器 当館

●層塔形舍利容器及び内容器

- 当館
- 蓮台形舍利容器 当館
- 宝塔形舍利容器 当館

◎三角五輪塔

- 当館
- 宝塔形舍利容器 当館
- 宝塔形舍利容器 当館

◎火焰宝珠形舍利容器

- 海龍王寺 当館
- 西大寺 当館
- 百万塔及び無垢浄光経陀羅尼 当館

●透彫舍利容器

- 神護寺経帙 当館
- 透彫経筒 万徳寺
- 鳳凰文銭金経箱 当館

◎王子形水瓶

- 当館
- 仙蓋形水瓶 金剛峯寺
- 仙蓋形水瓶 当館

◎仏御鉢

- 当館
- 柄香炉 当館
- 三鉢杵 当館

◎鏡

- 当館
- 五大明王五鉢鈴 円福寺
- 五鉢鈴 当館

◎独鈷杵

- 松尾寺 当館

【表紙写真解説】

賢愚経 卷第一（断簡）（写経手鑑「紫の水」所収）

当館蔵

この肉太で迫力に溢れた筆跡は、「大聖武」と呼ばれる奈良時代の古写経の断簡。その名は聖武天皇自筆との伝承に基づくが、実際の筆者は不詳。通常の写経が行に十七字を収めるところ、大聖武は十二字（ときに十三字）と少なく、その分、ひと文字ずつを大きく書く。料紙にはマユミの繊維から作った紙が使用されているが、かつては紙の表面に点々と見える粒子が骨粉を漉き込んだものと考えられたため「茶毘紙」とも呼ばれる。

この賢愚経断簡（大聖武）を収める写経手鑑「紫の水」には、ほかに絵因果経や長屋王発願経、光明皇后発願経といった墨書のもの、紫紙金字経、紺紙銀字経といった装飾経など、奈良時代から鎌倉時代にかけての写経断簡三十七枚と、正倉院伝来の奈良時代文書一枚が貼り込まれている。古写経の精髓を集めたこの手鑑は、書のみならず、色とりどりの料紙の取り合わせの妙も味わえる逸品である。

野尻 忠（当館学芸情報サービス室長）

【西新館 西休憩室】

春日塔跡出土品

（当館）

※●＝国宝、○＝重要文化財

※すべての展示において、内容の一部変更する場合があります。

三鉢杵

当館

五鉢杵

当館

割五鉢杵

当館

組法具

真光寺

一面器

当館

●宝相華唐草文華籠

神照寺

◎華籠

万徳寺

説相箱

個人

◎戒体箱

金剛寺

◎黒漆塗机

高山寺

三脚卓

当館

礼盤

当館

展示評

特別展「天然二へ」

― 求法の旅へ思いを馳せる ―

佐野みどり（学習院大学教授）

「玄奘三蔵絵巻（法相宗秘事絵詞）」は、絵巻史上燦然と輝く鎌倉絵巻の名宝として名高い。今回、全十二巻七十六段というこの絵巻の全貌が展観されると聞いて、胸を躍らせ真夏の奈良に通うこととなった。全巻展示を許可された藤田美術館の理解と英断にまず感謝したい。

さて会場では、鮮やかな色彩と見事な筆致に魅了され、巻ごとに並んだ長いケースをじっくり覗きこむ観覧者の姿を多く目にした。まこと作品の力を直球で私たち観覧者に投げかける外連味のない展示であった。

絵巻のモチーフ（馬に乗る玄奘）と天然竺図を使ったアニメーションパネルは、この壮大な、そして困難であったに違いない旅のイメージを空間的ヴィジョンとして伝え、本絵巻の根底に流れる玄奘の求法の旅への敬意と憧れを共有するに効果大であったと思う。ケース上の壁面に貼られた説明パネルも、前後期と巻の前半後半とに分かれた展示をよく補う解説となっていたし、音声ガイドも、簡潔にして要を得た解説はわかりやすく好感度の高いものであった。惜しむらくは、詞書の釈文が展示ケースやパネルとして提示されていなかったことである。詞書を正確に読むことの難しさのみが観覧者への印象と

して残ってしまったように思われる。

玄奘三蔵の求法の旅は、多くのの人にとり『西遊記』という物語世界として親しいものである。そのような観覧者の先入観に配慮する、すなわち「玄奘三蔵絵巻」と『西遊記』の距離、あるいは取経説話とその展開系譜などを最初に示すイメージ解説が会場入り口などにあってもよかったのではないだろうか。「玄奘三蔵絵巻」に孫悟空や沙悟浄がいつ登場するのか、どれが孫悟空だろうかと捜す会話を少なからず耳にした。本展の第三部に『西遊記』への道のりが展示されており、取経説話と尊像表現、深沙大將として明代の『西遊記』と見比べのある部門であったからこそ、この部分と「玄奘三蔵絵巻」全巻展示との展示上の連繋コンセプトがまず示されるとよかったのではないだろうか。第四部に天然竺図を配した展示は、その世界観をよく伝え、最後にこのブースに辿りつき、改めて玄奘の求法の旅へ思いを馳せる構成も見事であった。全体を通して、わかり易さと感動、そして驚きに満ちていた本特別展に多くの喜びを得たことを、改めて述べ、展示の実現に関わられた皆さんに感謝申し上げたい。



展示会場風景

● 公開講座 ●

第63回 正倉院展

- 10月29日(土)「金銀銅荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」
原田 一敏氏(東京藝術大学・大学美術館教授)
- 11月 3日(木・祝)「正倉院宝物にみられる経軋をめぐって」
永井 洋之(当館学芸部研究員)
- 11月 5日(土)「正倉院宝物にみる染め」
中村 力也氏(宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員)
- 11月12日(土)「香と仏教」
清水 健(当館学芸部研究員)

特別陳列 おん祭と春日信仰の美術

- 1月7日(土)「春日社旧社家の大東家文書と『皇年代記』」
藤原 重雄氏(東京大学史料編纂所助教)
- 各回とも午後1時30分～3時(午後1時に開場し、入場券を配布します)。当館講堂にて。定員194名(先着順)。聴講無料
- ※入場の際には、各展覧会の観覧券もしくはその半券、友の会カード等をご提示ください。

● サンデートーク ●

- 10月16日(日)「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」
吉澤 悟(当館学芸部教育室長)
- 11月20日(日)「二体の僧形坐像—その像主をめぐって—」
岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)
- 12月18日(日)「写経生の労務管理」
野尻 忠(当館学芸部情報サービス室長)
- 1月15日(日)「吉祥天と金光明経の美術」
谷口 耕生(当館学芸部保存修理指導室長)
- 2月19日(日)「脚と格狭間」
永井 洋之(当館学芸部研究員)
- 3月18日(日)「奈良国立博物館の近代建築—仏教美術資料研究センター(旧奈良県物産陳列所)の過去と現在—」
宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

各回とも午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)。当館講堂にて。定員194名(先着順)。聴講無料

● ボランティア解説「正倉院展のみどころ」●

- 10月29日(土)～11月14日(月)正倉院展会期中毎日5回 30分程度
午前10時～、11時～、12時～、午後1時30分～、2時30分～
当館講堂にて。入館者の聴講自由
- ※ただし10月29日、11月3日・5日・12日は、公開講座のため、午後の2回が中止になります。

● 第63回正倉院展 関連イベント ●

- 10月15日(土) 午後2時～
「香木の魅力～シルクロードの香りをそえて～」
講師：鳥毛逸平(株式会社日本香堂取締役 研究室長)
主催：日本香堂、協力：当館
会場：当館講堂。定員180名。

※参加申込は、電話にて10月11日(火)午後5時まで受付(定員になり次第締め切ります)。
お申込・お問い合わせ先0742-22-4450/4478(当館総務課企画推進係)

◆ 奈良国立博物館賛助会

平成23年9月1日現在、一般会員(個人)40名、一般会員(団体)20団体、特別会員5団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

- 【特別会員】 株式会社 大伸社 様(平成23年9月ご入会)
【一般会員(団体)】 株式会社 日経サービス 様
(平成23年7月ご入会)
【一般会員(個人)】 森口 晴男 様(平成23年9月ご入会)

◆ キャンパスメンバーズ

平成23年9月1日現在、「キャンパスメンバーズ」の会員大学等は以下の通りです。

〈会員大学等〉

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学・帝塚山高等学校、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学、奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部(五十音順)

み ろく ぶつ ざ ぞう 弥勒仏坐像

木造 漆箔・彩色
像高 147.3cm
平安時代(10～11世紀)
奈良 弥勒寺所蔵

像高150cm弱、半丈六の大像である。奈良県大和高田市土庫(どんご)の弥勒寺本堂に本尊として伝来した。これだけの大型像であるにもかかわらず、両脚部を含めた像のほぼ全容を、サクラかと見られる広葉樹の一枚から彫成し、像内を内削している。年輪をあまた重ねた古木を用いた彫像といえよう。



重量感のある造形だが、ロープ状の衣文を整然と配する形式や、小さめの目鼻を顔の中央に寄せて表す点、足首を膝頭より奥にぐっと引くところなど、平安時代中期の作風が顕著である。

平安時代の弥勒仏の遺例をながめると、右手は掌を前に向けて立てる施無畏印とし、左手は仰掌して持物を執らない与願印とする像が比較的多いが、一方で左手を膝に伏せる触地印のものもある。

弥勒寺像が現在左手に載せる宝塔は弥勒の標識であるが後補のものなので、やはり左手は与願印か触地印かのどちらかであった可能性がある。

本像の表現上きわめて珍しいのは、耳朵が網目状に表されていることである。經典上の典拠が不詳だが、類例に奈良・法隆寺新堂の薬師三尊のうちの中尊像があげられる。新堂像は、いま薬師如来の持物である薬壺を執るが、これは後補であり、かつ新堂の本尊は弥勒仏であるとする文献も存在する。とすれば、あるいは耳朵を網目状に表現することと、弥勒という尊格との間には密接な関係がある可能性もあり、今後の検討を要しよう。

岩田茂樹(当館学芸部長補佐)

◆なら仏像館にて、10月4日より特別公開

名品展の みどころ

重要文化財 鳳凰餞金経箱

木製 黒漆塗 鍍金 螺鈿(後補)
縦20.2 横39.3 高25.3cm
中国 元(14世紀)
当館所蔵



蓋の四周に大きく削面を取り、底の深い合口造りの箱で、中国・元時代に製作された經典を納めるための箱である。蓋甲には双鳳凰文、身側面のうち、長側面に双孔雀文、短側面の一方に双鸚鵡文、もう一方に頭光を負う4名の比丘形を鍍(餞)金で線描している。身の短側面とその上の蓋縁には、合口部を挟んで「伍」「周」、「貞」「貳」の文字が刻まれる。箱の各稜部、合口部の縁に見られる細かな螺鈿は後補と考えられる。

鍍金とは、漆面に文様あるいは図案を線刻し、その彫溝(刻線)に金箔を押し込んで金線を表す技法で、わが国では沈金と呼んでいる。同技法によって装飾された同形の箱が、本品のほか広島・浄土寺所蔵のものなど9例ほど知られる。本品には銘文は見られないが、その9例のうち4例に中国(元時代)の延祐2年(1315)の年紀と杭州で作られたことが蓋裏に記されており、本品も元時代(14世紀)に作られたと見られる。本品の形状に注目すると、わが国の経箱と比べて長方形で底の深い作りであるが、当時の大蔵経などの装丁の多くは折本装であり、經典を重ねて納めるためにこのような形状に製作されたと考えられる。また類例の多くには舶載後に取り付けたと見られる紐金具が付くが、本品にはない。京都・大徳寺所蔵の五百羅漢図(重要文化財、南宋時代)に描かれた経箱や中国での出土品を見ると紐金具はなく、本品のほうが本来の姿に近いことが分かる。

永井 洋之(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、12月6日～25日に展示

開館日時(10月～12月)

■開館時間

平常時

午前9時30分～午後5時
(10月28日までの毎週金曜日と、12月17日(土)は午後7時まで)

正倉院展会期中(10月29日～11月14日)

月曜日～木曜日:午前9時～午後6時
金・土・日曜日、11/3(祝):午前9時～午後7時

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(ただし10月10日(祝)は開館し、翌11日(火)は休館)、1月1日(日・祝)
※正倉院展の会期中は無休

観覧料金

第63回 正倉院展

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円
オータムレイト	700円	500円	200円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は10月28日(金)まで。
※オータムレイトは、開館の1時間30分前より販売する当日券の料金です。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

特別陳列・名品展

	一 般	大学生
個 人	500円	250円
団 体	400円	200円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので、最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

